

輝き続ける  
母校へ創 立：明治44年（1911年）今年度創立112年目  
卒業生数：27,412名（令和5年4月1日現在）

## CONTENTS

同窓会長、学校長あいさつ	1
総会	2-3
事業・決算報告 / 事業・予算計画	4
同窓会活動紹介	5
学校紹介	6-7
高校再編	8

## ご挨拶

同窓会長 下島 典子



会員の皆様、お元気でいらっしゃいますか。

今年の総会は4年ぶりに以前と同じいなっせで開催いたしました。邦楽部のお箏が奏でられる中での茶道部の呈茶、ステージには華道部の生花、器楽部の演奏もありました。たくさんの方々が笑顔で協力してくださり、総会を華やかにしていただきました。

講演会は長野朝日放送の草田敏彦アナウンサーをお迎えしました。国語教師になる直前にアナウンサーの道に突然導かれたお話や、日常生活で役立つ話し方など、思わず引き込まれてしまう楽しく充実した時間でした。

一昨年、ある先輩の方から匿名で「後輩の支援」として百万円のご寄付をいただきましたが、昨年も同じ方から同額をいただきました。学校側の要望をお聞きし、備品購入などに活用させていただきました。厚く御礼申し上げます。

2回目の制服リユース事業もたくさんの方からご協力いただき、温かい譲渡会が開かれました。

6月の弥生祭には4年ぶりの一般公開が実現し、同窓会として初の試みで校章と「弥生」の焼き印を押したどら焼きとおまんじゅうを販売し、その売上金を生徒会に寄付いたしました。この焼き印は今後も様々な場面で利用したいと思っています。

統合により同窓会をどのようにしていくのか、両校での話し合いが始まります。課題は多いのですが、最善の方向に進めていきたいと思っています。また校舎の将来活用についても同窓会としての要望を出していく所存です。皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

弥生ヶ丘高校のある限り、母校、在校生への支援を続けて参ります。変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様健やかにお過ごしくださいますように。

## 伝えるということ

学校長 松村 明



校門の銀杏並木の青々と茂った葉による通路の木陰が涼しげに見えます。同窓会の皆様方には、日頃より母校の教育活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

6月、本校東京支部同窓会に招かれ出席してきました。本会でも講演をされた山口通之先生の「伊那高女の大正～第二次大戦時の教師の生き様に学ぶ」という貴重なお話を伺いました。併せて、同じテーブルに伊那高等女学校第33回卒の岸本多恵子さんもいらっしゃり、本校敷地内にある慰霊碑への思いを伺いました。学友が名古屋での学徒動員中に米軍機の爆撃によって亡くなったことによって、岸本さんを合わせた270名ほどの仲間が故郷に戻ることができましたが、学友の犠牲で生かされている深い悲しみやつらさをもって慰霊碑の建立に至ったと痛感しました。

慰霊碑の裏側には、「戦争によって学徒が、学問する権利を奪われ、死んでいった悲しみを再び繰り返すことの無いよう後世に伝えたい」とあります。慰霊碑を建立された関係者の思いに寄り添い、平和の尊さを認識し、戦争がいかに多くの悲しみをもたらすかを語り継いでいくことが必要であるとあらためて思慮いたしました。

## 訃報

元同窓会長の清水貞子さん（高女35回）が本年2月26日、92歳で亡くなりました。

平成16年から24年までの長期にわたり同窓会長を務められ、母校と同窓会の発展に多大なご尽力をされました。特に母校が創立百周年という節目に当たる2011年には、記念式典をはじめ多くの記念事業の実行委員長として采配を振るわれました。また、会費制の導入、会報の発行を始めるなど、現在の同窓会の基礎作りにも取り組まれました。

清水さんの豪放磊落な性格と人柄は今も多くの人々の心に深い印象を残していることと思います。心からの敬意と感謝の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。





## 総会開催

今年度総会を5月27日、ニシザワいなっせホールにおいて開催しました。下島会長は挨拶で「新校開校に向けて懇話会等が開かれ、県内で初の試みとなる新しい学びが創られようとしている。ぜひ心を寄せてほしい。」と呼びかけました。

昨年度の事業、決算および今年度の事業計画、予算案、役員改選について審議いただき承認されました。今年度よりの新規事業として、母校が高校再編で閉校することを受け、閉校記念誌編集委員会を特別委員会として位置づけ、発行に向けて着手することになりました。



## 在校生の協力

総会は同窓生のみでなく、在校生とも交流できる機会となっています。総会が始まるまでの時間は、邦楽部の生徒さんが奏でる箏の調べが流れる中、季節感あふれる練り切りとお抹茶で、茶道部の皆さんによる呈茶を楽しみました。華道部の皆さんは朝早くからホールのステージに飾る花の準備をしてくれました。また総会後のアトラクションとして、昨年度全国大会において3位の成績を収めた器楽部の演奏会を行いました。今年度の課題曲「トレディックプレリュード」という10分にも及ぶ大曲や耳なじみのあるポップスなどの演奏で、ステージも会場も明るい雰囲気に包まれました。



▲〈華道部〉

ヒマワリの黄色い花卉がステージを華やかにしてくれています。



◀〈茶道部〉

おもてなしの心に触れながら、お茶に添えられた美しい和菓子をいただきました。



▲〈邦楽部〉

箏の音色が優雅な空間を彩りました。



◀〈器楽部〉

「トレディックプレリュード」は速い楽節と複雑なリズムが特徴で、高い技術力が必要です。この曲を情感豊かに表現して、観客に魅了し感動を与えてくれました。

## 来年度総会のお知らせ

期 日 令和6年5月25日(土)  
会 場 ニシザワいなっせホール  
当番学年 高校35回 昭和58年3月卒業

## 講演会

柘植伊佐夫さんのトークショー

伊那市のご出身。映画・舞台に登場する人物の扮装をトータルに生み出す「人物デザイナー」として活動されています。現在放送中の大河ドラマ『どうする家康』では登場する人物のデザイン監修を担当されています。この職業に携わるようになったきっかけや、多くの作品に携わる中での興味深いエピソードをお話いただきます。



## 講演会

長野朝日放送アナウンサーの草田敏彦さんを講師にお迎えし、「想定外のアナウンサー人生」と題してご講演をいただきました。

草田さんは夕方のニュース「abnステーション」のキャスターを長年担当され、報道制作局報道部長を経て、現在はエグゼクティブアナウンサーとして後進の指導や報道の管理運営に携わるなど、放送業界の第一線でご活躍されています。ご自身が高校時代野球部を経験されていることから、高校野球などのスポーツ実況を得意とされているそうです。

大学4年の卒業直前まで県内高校の国語教師になるはずだった草田さん、ある一本の電話から思いがけないアナウンサー人生が始まりました…。

これまでのご自身が経験されたエピソードから、不思議な巡りあわせで人生は成り立っている…と語られました。またアナウンサーとしてのキャリアから声色や抑揚の使い方、情報伝達の効果的な方法について、具体的な事例を交えながらお話しくださしました。

草田さんの温かく魅力的な人柄と明るいお話にて会場は笑い感動に包まれました。この度草田さんと結ばれたご縁と、多くの皆様と講演会を共有できたことに感謝いたします。



## 当番学年

今年度総会の当番学年では、母校見学と懇親会が催されました。母校見学では懐かしい風景を巡りながら、また懇親会では当時のニックネームが飛び交い、高校時代にタイムスリップした感覚だったそうです。恩師も3名駆け付けてくださり、感慨深い思い出ができました。これからも繋がりが広がっていくことと思います。

### 同窓会に参加して 当番学年会長 唐澤和夫

去る5月27日、私達34回生は当番学年として同窓会総会に臨みました。いっせいでの総会、母校の見学会、その後の懇親会では40余年の時を飛び超え、3名の先生方と85名の同窓生とで青春時代に戻って語り合うことが出来たことはかけがえのない新鮮で貴重な経験となりました。



母校校門前でDクラス担任の小林正明先生（写真中央）と



伊那弥生ヶ丘高等学校第34回生（S57.3卒）同窓会 令和5年5月27日 於 JA上伊那フラワーパレス

（写真提供：平沢写真館）

### 同時開催 弥生展

書道・絵画・手工芸作品を展示します。  
会期：令和6年5月25日（土）・26日（日）  
会場：伊那市生涯学習センター  
「いっせ」2階展示ギャラリー

※弥生展ではワークショップを考えています。  
※展示作品、ワークショップの講師を募集いたしますのでご協力をお願いいたします。

※時間などの詳細については開催近くなりましたらホームページでお知らせいたしますので、ご確認ください。



## 令和4年度 事業報告

- ・総会の開催 5/28 (講演会、学年イベント)
- ・会報第13号発行 9/1
- ・母校の教育活動支援、全国大会出場クラブ激励会
- ・統合に向けた同窓会の在り方についての検討

## 令和5年度 事業計画

(目標)

- ・同窓会組織及び活動の充実、発展
- ・母校の教育活動支援

(活動の重点)

- ・本会、支部組織が機能、充実するために会費制をはじめとした必要な環境整備を行う
- ・情報を積極的に発信する
- ・教育活動支援を行なう
- ・新校再編実施計画及び同窓会の今後のあり方について検討する

※今年度よりの新規事業

閉校記念誌編集委員会を特別委員会として位置づけ、発行に向けて着手する

## 令和4年度 決算

❖ 一般会計	
(収入の部)	10,746,759 円
(支出の部)	10,324,664 円
(差引残高)	422,095 円
❖ 終身会費積立	
年度末積立額	17,386,105 円
❖ 基金積立	
年度末基金額	1,904,190 円

## 令和5年度 予算

❖ 一般会計	
(収入の部)	9,580,000 円
(支出の部)	9,580,000 円
❖ 終身会費積立	
年度末積立見込額	16,438,200 円
❖ 基金積立	
年度末基金見込額	1,904,220 円

※詳細についてはホームページを参照してください。  
当該ページにはこちらから →→→



## 令和5年度 年会費・終身会費 納入のお願い

令和4年度年会費、終身会費をお納めいただきましてありがとうございました。  
昨年度の教育活動支援としては、学校教育の中で重要なアイテムとなっているオンライン学習を充実させるためのズームのライセンス権取得への継続的な資金援助、併せて探求学習への支援をはじめ、充実した教育活動を進めるための資金面での支援を中心に行なってきました。

### 《金額》 25,000円 (終身会費)

※平成24年度から納めていただいていた分を含めますので、すでに納入された金額については事務局までお問い合わせください。但し④の「年齢による特例措置」により納めていただく場合は除きます。

次のいずれかの方法でお願いいたします。

- ① 25,000円を一括納入
- ② 59歳までに15,000円、60歳時に10,000円を納入
- ③ 毎年1,000円を納入
- ④ 特例措置として、次の年齢の方はこの金額で納入していただけます。
  - ・60歳以上：10,000円
  - ・70歳以上：5,000円
  - ・80歳以上：名誉会員のため会費はいただきません

### 《納入方法》

同封の振込用紙でお振込みください。上伊那地域にお住いの皆様には地区役員が集金にお伺いします。

### 《納入期限》

令和6年1月末までにお願います。

※ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

### お願い

私たちにとって弥生ヶ丘は単なる教育機関ではなく、私たち同窓生の人生の重要な一部であり、多くの思い出やつながりを築いた大切な場所です。また、母校の歴史と伝統を称えあうことのできるのと同じ学び舎で高校生活を送った同窓生だからこそです。

閉校が近づいている状況ですが、今現在母校で学んでいる生徒が最後まで精いっぱい高校生活を送ることができるよう、同窓生として支援をしたいものです。残念ながら県の予算も限られているため、学校にかけられる金額も制約されています。そのため教育環境にも影響が出る可能性があります。実際、今エアコンが整備できていない特別教室で、猛暑の中授業をしている状況です。私たちの支援で、学校の資源や施設の充実、そして子どもたちの学びの環境の改善に貢献できるのです。お一人お一人の会費で、是非後輩を見守ってほしいと願っています。今の母校と後輩、そして同窓会を大切に思っていたきたいと、心よりお願い申し上げます。

閉校後の同窓会費について心配されているかと思いますが、会員個々の納入状況などのデータ、会費の使途や積立金などに関する対応について十分な検討を行い、適切に処理しますので、これまで納めていただいた会費、終身会費は閉校後も有効に使われるよう万全な対応をいたします。閉校した母校の将来活用や同窓会の今後のあり方を考える中でその財源として活用することもできます。また母校の歴史や財産を保存、継承するための活動、新校同窓会が設立されるまでのサポートの提供なども考えられます。適切に処理し、意義ある目的に使うべく今後協議を重ね、適宜報告をしていきます。



## 輝き続ける母校を願って

当会の事業目的に掲げる「母校の教育振興及び在校生への支援」を具体化させる事業として現在取り組んでいる活動を紹介します。

### 〈制服リユース事業〉～想いを繋げて～

卒業生から不要となった制服を回収し、希望する新生や在校生に無償で譲る事業を令和4年3月から始めています。SDGsにそって資源を有効活用するとともに、ご家庭への支援を目的としています。初年度は15名ほど、2年目となった今年は20名ほどの新生と在校生にお譲りできました。大切な制服をご提供いただきました皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

先輩から引き継がれた思いのこもった制服を身につけ、充実した学校生活を送ってくださることを願っています。



### 〈弥生祭出店事業〉～思い出をひとつの大きな花束に～

今年度4年ぶりに弥生祭の一般公開が復活しました。

来校する保護者や地域の方、生徒さんにお菓子を販売し、その売上金を生徒会の活動資金に寄付する事業に今年度初めて取り組みました。新たに校章と校名の焼き印を制作し、それを押したオリジナルのどら焼きとお饅頭を合わせて1,200個用意しましたが、予想以上に来校者が多く開店からわずか1時間半ほどで完売となりました。

久しぶりに母校の文化祭を体験する役員がほとんどで、当時とは大きく変わってはいましたが、生徒さんたちが生き生きと様々な場面で輝く姿を見ることができました。そんな素敵な笑顔の高校生と同じステージで時間を共有できた有意義な一日でした。後日、利益分の30,000円を生徒会長と弥生祭実行委員長に手渡しました。



私たちは、母校が閉校するということに対して深い悲しみを感じています。しかし、私たちの願いは、閉校まで輝き続ける母校の存在です。母校は多くの思い出と価値を与えてくれましたし、その歴史や伝統、教育の質の高さは、私たちが誇りに思うべきものです。「閉校まで輝き続ける母校を願って」という想いは、同窓生共通の思いです。母校は閉校することで終わりではなく、新たな道を歩み始めることを信じています。これらの事業が、社会や地域に弥生の素晴らしい魅力を伝えるための取り組みの一つとなればと思います。

## 同窓会の今後のあり方について

2028年4月に母校と伊那北高校が統合し伊那新校（仮称）が開校します。

統合にあたり、同窓会がこれから検討していかなければならない課題として、大きく次の2点が考えられます。

- 1 現在の同窓会組織をどうするのか
- 2 母校の将来活用

### 課題と進め方

#### 〈現在の同窓会組織をどうするのか〉

組織の今後としては ①統合し新校の同窓会となる ②統合せず現在の同窓会を維持する という2つの選択肢が考えられる。

現在本会は会員相互の親睦と資質の向上を図ると共に、母校の発展に寄与することを目的としているが、閉校と開校後、同窓会が果たす役割として何が重要であるとするのか。併せて各選択肢の利点や課題を、同窓生目線と学校及び生徒目線で比較検討する必要もある。また、保有する財産、資産、記録資料などの管理といった詳細な事案についても検討しなければならない課題である。

今後両同窓会がともに同じステージに立ち、情報と現状を共有しつつ今後のあり方について協議する組織を立ち上げる予定である。本会としてどう方向づけていくのか意思の統一を図りたい。

#### 〈母校の将来活用〉

母校の周辺地域一帯は伊那中学校及び伊那文化会館、陸上競技場などの学びや文化、スポーツの施設が整備されており、文教地区として認識されている。併せて周囲には各施設の大型駐車場、地域交通の要所となる中央自動車道をはじめとした幹線道路や小黑川スマートインターも整備されており、伊那弥生ヶ丘高校が持つ立地環境の利点を有効に生かした利活用がおおいに期待できる。また、母校に寄せる思いは、精神的な視点から考えると、懐古と郷愁の感情、誇りとアイデンティティの感覚、混沌や喪失感への対処など様々な感情や思考が関与してくる。同窓生にとって特別な意味を持つ場所が、郷愁や愛着を喚起できる要素、絆や共感を育むなどの要素、また、学びの場であったこの地に引き続き教育的な要素を取り入れるなど、利活用には様々な視点が考えられる。

県及び伊那市など関係機関に利活用について要望しつつ、今後のまちづくりについてともに考えていきたい。

現時点では、閉校後の同窓会組織の形態についてはまだ具体的な決定事項はありません。今後、両同窓会で協議を重ね、最適な形態について検討していく予定です。ご報告できる進展があり次第、お知らせいたします。

役員会では各テーマについてロードマップを作成し、計画的に事案解決を図っていきますが、なにより会員皆様のご意見をお伺いし、よりよい方向性を模索していきたいと思っています。皆様のご意見をぜひお寄せください。



# 学校紹介

～ 松村校長先生制作スライドから ～ 一部抜粋

## 教育目標

### 「自主自律」「文武両道」

の精神のもと、文化や社会の担い手として、全人的教養とともに、

### 理性的判断力 豊かな創造力

を備えた人間を育てる。

## 本校の教育の特長

- 1 手厚い指導による学力向上
  - (1) 国公立大合格者が拡大
  - (2) 現役合格率の高さ
  - (3) 一人に多くの教員が関わる
- 2 行事を大事に(近隣施設も活用)
- 3 探究学習を推進
- 4 ICT教育(タブレットを使った授業)

## ICTの活用：タブレットを使った授業

令和3年度より個人持ちのタブレット(BYAD)導入

- 全学年で
- 授業で活用
- 探究の時間でも活用
- 生徒会活動でも活用



## 高等学校で学ぶ「総合的な探究の時間」とは

教科の垣根を越えて、生徒自身が社会や地域の課題などから興味関心をもとに主体的に「問い」を設定し、課題解決に向けて、他者と共に(協働的に)、試行錯誤しながら、学びを深めていく学習のこと。

本校では、地域の専門家や信州大学等の先生に関わってもらっています

## 1年生の「総合的な探究の時間」

- ・探究、どう学ぶ(探究基礎)
- ・郷土愛プロジェクトによる地域の講師と学ぶ → グループ探究
- ・2月 グループ探究発表会



## 2年生の「総合的な探究の時間」

- ・前期：アカデミック・チャレンジ(大学の学び)
- ・後期：個人探究
- ・3月 個人探究発表会(1年生も聞く)R4伊那北高校生も発表



# 進路状況 (2023年3月)

## 〈卒業生の進路状況〉

	進 学						計	就 職			その他 予備校 など	合 計
	大 学		短期大学		専門学校等			公務員	民間	計		
	国公立	私立	公立	私立	看護医療系	他						
男子	23	47	0	0	1	5	76	1	1	2	5	83
女子	22	75	1	2	8	4	112	1	3	4	2	118
合計	45	122	1	2	9	9	188	2	4	6	7	201
合格延数	48	307	1	5	11	10	382	2	4	6		388

## 進路状況と考察

県内国公立大学進学者は、国公立大学への進学者の56%で、昨年の40%から大幅に増加した。私立大学では昨年同様、都市部の中堅大学～難関大学への志願者が多く、併願可能な総合型選抜や学校推薦選抜を上手に利用し合格を確保した上で、一般選抜で本命に挑戦していく受験スタイルが定着してきている。

## クラブ 全国大会出場

### 全国高等学校体育大会

- \* 男子ソフトボール部 (R5/8/4～8 北海道石狩市)
  - 1 回戦 6 - 5 白石工業高校 (宮城県) 2 試合とも全国屈指の強豪校相手に戦い抜きました。
  - 2 回戦 0 - 6 千葉敬愛高校 (千葉県)

### 全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール

- \* 器楽部 (R5/7/29・30 大阪府吹田市)

**快拳** 2年連続 全国第3位にあたる「全国知事会賞」を受賞!





## クラブ紹介

— 活躍する生徒たち —

### 演劇部

演劇部は、6月に行われる弥生祭、そして9月に開催される上伊那地区高校演劇合同発表会に向け日々活動しています。一昨年、昨年は上伊那地区代表として推薦していただき、長野県高校演劇連盟合同発表会（県大会）で自分たちの

オリジナル作品を上演し、審査員の先生方に高い評価をいただくことができました。県大会に推薦されてきた各地区代表校のレベルの高い演劇も観劇することができ、とても勉強になりました。台本を選び、台詞を覚え、舞台装置や小道具、照明や音響を考えて一つの作品にするにはとても時間がかかります。しかし、本番、舞台上で演技ができるのはたった1時間ほどしかなく、私は一瞬に感じます。ですが、部員の仲間や顧問の先生と協力して作った演劇を忘れることはできません。観てくださったお客様の心にもずっと残る演劇を今後も目指していきたいと思えます。今年度も決して多くはない舞台に全力で取り組み、仲間や支えてくれる人への感謝を忘れずに、自分たちにとっても、関わってくださった皆さんにとっても、良き思い出として残るような舞台となるよう練習に励んでいきたいと思えます。ぜひ、私たちの演劇を観に来てください！  
(部長 田畑花夏)



### 女子バレーボール部

私たち女子バレーボール部は、顧問の南澤先生、副顧問の新井先生のご指導のもと、毎日楽しく活動をしています。19名の仲間たちと共に多くの壁を乗り越え、最後の総体では県大会に出場することができました。これからも保護者の方々や仲間、先生方への感謝を忘れず、チーム全員で戦っていききたいと思えます。

皆でバレーボールをすることの楽しさを感じながら、本気で取り組む部活は私たちにとってかけがえのないものです。

3年生はもう少しで引退となります。この仲間たちと1試合でも長く、1プレーでも多くバレーボールができるように3年間のすべてをかけて戦います。

(部長 保高楓恋)



### 男子バレーボール部

男子バレーボール部は選手10名で活動しています。

先日行われた南信総体では南信5位で県大会進出という結果になり、目標としていたベスト4にはあと一步届かない悔しい結果になってしまいました。なので日々互いに良いプレーをしたときには称賛しあい、うまくいかない時にはアドバイスをしあうなどと、チーム一丸となり練習しています。

6月2日から行われる県総体では日頃から支えてくださっている方々に感謝し、県ベスト16を目指して頑張ります。

(部長 佐藤拓海)





# 高校再編

## 伊那新校（仮称）開校に向けて

長野県教育委員会は2022年11月、伊那新校（仮称）の施設設備などに関する基本計画作りを支援する業者をプロポーザル方式で選定し、暮らしと建築社（伊那市）とみかんぐみ（神奈川県）の共同企業体を選びました。

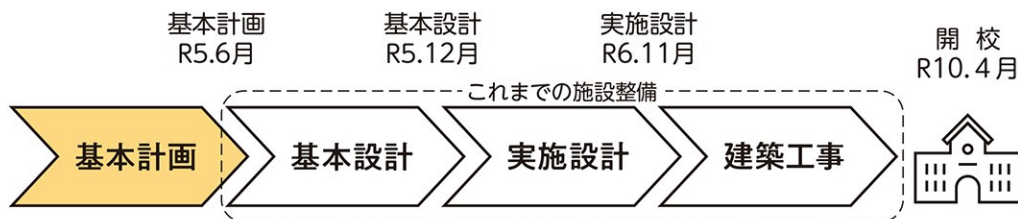
その後、懇話会構成員からなるNSD（長野県スクールデザイン）会議が本年2月から現在まで4回、地域住民や生徒、教員らの意見を聞くワークショップなどが何回も開催されてきており、それらを受けて施設整備事業基本計画が策定されました。  
※NSD（長野県スクールデザイン）

変化が激しく予測困難な時代にあっても、多様な子どもたちが自ら未来を切り拓いていく力、自ら社会と関わり、仲間と共同して新たな社会を創造する力を育むため、探究的な学びへの転換が必要となっている。こうした学びの改革に対応するため、一人一人の様々な学習ニーズに対応できる環境整備が求められている。そのため施設の基本的な整備計画の段階から教育委員会や関係部署などに加え、地域、生徒、教職員、建築専門家が参画し、様々な視点から学校づくりについて議論している。

## 施設整備事業基本計画

この基本計画には新校の空間デザインや校舎配置、設備機能、予算工程などが盛り込まれています。（※詳細については県教委のホームページをご覧ください）

## 伊那新校（仮称）開校までのスケジュール（予定）



## 本会役員名簿（令和5年度改選）

会長	下島 典子										
副会長	安積 順子	／	西原 功								
常任理事	中村 繫子	／	守屋あつ子	／	中平由美子	／	伊藤のり子	／	井口美奈子	／	北原美智代
〃	大森 裕子	／	原 健児	／	伊藤 圭子	／	田畑 和輝	／	塩澤 康一		
監事	片桐 洋子	／	広瀬夏葉子								
幹事	竹松ゆかり	／	常田真由美	／	瀧澤 洋貴	／	林 友海子				
事務局	田中真奈美										

## 編集後記

4年ぶりに一般公開された弥生祭で、校章入りのどら焼きやおまんじゅうを販売した同窓会メンバー。すっかり時を遡り高校生と同じ底抜けに明るい表情でした。また総会では多くの弥生生が協力してくれました。同窓会と現役高校生の良い関係が築かれています。

このような同窓会の多くの活動をホームページやInstagram (yayoi\_doso)で発信しています。ぜひご覧ください。

Follow me!

Q yayoi\_doso



Instagram



HP QRコード

## 伊那弥生ヶ丘高校同窓会

令和5年9月1日発行

TEL・FAX 0265-76-0615

<http://www.inayayoi-dousoukai.com/>

[yayoidoso@heart.ocn.ne.jp](mailto:yayoidoso@heart.ocn.ne.jp)

編集 / 印刷 有限会社北条印刷